

令和2年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書
(令和2年4月～令和3年3月)

0. 実施状況

校長指示の下、教務部長が自己評価表を作成し、教職員リーダー6名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の4段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

1. 開催日時

令和3年9月22日（水）13:00～14:30

2. 学校関係者評価委員

伏見勉氏	校長	神奈川県立神奈川産業高等学校	校長
菊池匡文氏	企業等委員	横須賀商工会議所	専務理事
北川貴和子氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所	取締役
小峰正仁氏	企業等委員	株式会社メンバーズ	常務執行役員
上坂伸夫氏	企業等委員	株式会社フジパシフィックミュージック	エグゼクティブプロデューサー
小野たまみ氏	企業等委員	神奈川新聞社経営戦略本部兼デジタルビジネス局デジタルビジネス部	部長

3. 出席教職員

三辻 訓	校長		
村田 恒	教務部 部長	高内 一平	教務課 課長補佐
指澤 祐二	教務課 課長	宮下 隆友己	教務課 課長補佐
眞田 宏之	教務課 兼 広報学生課 課長	藤原 光洋	教務課 課長補佐
高山 和也	就職指導部 課長補佐		



3. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

令和2年4月1日より令和3年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

(1) 教育理念・目標

<報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。
- ・学生に科目毎のシラバスを作成・配布。非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、教育課程編成委員会、日々の授業後等において、周知徹底している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

前期後期で年2回、教育課程編成委員会を開催し、委員の意見を集約する。令和2年度は9月29日、3月15日に実施。令和3年度は9月22日、3月上旬に実施予定。具体的な教授方法、進捗状況などを確認する。

(2) 学校運営

<報告>

- ・年度当初に事業計画・予算の策定。定期的な会議等により学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握。
- ・学生数増に伴う業務増のため、教職員の増員が必要。令和2年度中より1名増員。令和3年度に2名増員と、段階的に改善されてきている。

<評価・意見>

- ・特になし

<対応>

- ・今後も適正な人事配置、業務の効率化を図っていく。

(3) 教育活動

3)-1 カリキュラム (教育課程)

<報告>

- ・「職業実践専門課程」として「教育課程編成委員会」を設置。カリキュラム変更は、神奈川県に提出・承認。成績評価・単位認定は、シラバスに記載、学生へ周知。
- ・企業連携講座を積極的に実施。
- ・流行・トピック的な学習も必要と認識、選択授業「短期講座」を設定し、年度途中であっても授業内容を柔軟に追加している。
- ・教員が高校の見学会、学生募集イベント、入学面接試験等に参加・担当することで、課題設定や学習スピード等をカリキュラムに反映させるようにしている。

<評価・意見>

- ・貴校は多様な分野を扱っており、Webなどを活用することで、横の繋がりをつくって発信することができる。それが貴校の強みだと感じている。音楽業界だと、例えば海外のアーティストとコラボレーションで曲を制作して提供する、というような取り組みが比較的容易にできるようになってきているので、そういった横の繋がりを広げていくことで可能性も高まるのではないか。

<対応>

- ・オンラインでの教育環境下で出来ることは変化してきている。学校内、学園内でのコラボレーションはもとより、様々なコラボレーション実現の可能性は広がっており、取り入れたカリキュラム展開を目指す。

(3)-2 教員の質確保・研修等

<報告>

- ・教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用。学生アンケート（授業評価）実施、グループ・個人目標設定して改善。
- ・教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加義務付け。オンラインセミナーへの参加件数が増えており、特に専門分野の研修への参加ハードルが下がっており、参加しやすくなった。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

令和3年度は、オンラインでの研修への参加も積極的に奨励し、計画的に実施する。

(3)-3 インターンシップ・成果発表等

<報告>

- ・各学科で企業実習や企業との連携プロジェクトを積極的に実施、コロナ禍ではあるが、オンラインなども取り入れて継続実施している。
- ・コミュニケーション能力の育成は、グループワークやプロジェクト型学習を取り入れること、また外部講師による特別講座の実施等で向上を図っている。
- ・学生の主体性を育むために、学園祭実行委員会や各種イベントを支援。
- ・教育活動の公開については、前期発表会はコロナ禍の影響で中止をしたものの、後期発表会、YDAAWARDについては、オンラインでの実施を行った。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

令和2年度も引き続き、企業連携、プロジェクト学習を実施していくが、

(4) 教育成果

(4)-1 就職

<報告>

- ・就職指導部職員が、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。求人票や過去の就職活動のデータベース化などのシステムを構築。
- ・令和2年度卒業生の就職希望者の内定率は87.6%。
- ・引き続き、インターンシップや正規の授業以外に特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行い、就職実績向上を図る。

<評価・意見>

- ・専門就職が難航しているようだが、最近是一般企業においても専門的なスキルを持った人材を欲している。そういった企業からの求人はあるのか。例えば製造業のような業種でもWebデザイナーを募集したがっているが、そもそもどこに求人を出せばいいのかわからない、という状況がある。そういった企業とのマッチングを見直すことも検討してはどうか。
- ・基本は人間性だと感じている。企業側は辞められることを一番嫌がる。模擬面接のような形式的な就職指導だけでなく、もっとロールプレイに基づく指導があったほうが良いと思う。

<対応>

- ・学校からは様々な職種での求人を紹介しているが、学生自身が選り好みしてしまい思うように受験してくれないことも多く、苦慮している。学生・企業側共にマッチングをしていくべきという意見は一緒に検討させていただきたい。
- ・様々な指導方法を検討しながら、引き続き専門就職率の向上を目指す。

(4)-2 退学

<報告>

- ・令和2年度の退学率は3.76%。オンライン授業が増えたことにより、出席率向上、退学者減となった。登校機会が減ったことにより、人間関係のトラブルが減ったことも要因の一つ。

<評価・意見>

- ・報告を受けて学生のストレスコントロールがうまくいっているのではないかと感じる。今後のポストコロナ時代を見据え、学生とどう向き合っていくかが重要だと思うが、学校としてどのような取り組みを模索しているのか。
- ・オンラインの授業では物足りないと思う学生もいるだろうが、これまでとは全く違う環境になってしまったが、いままでにはない多くの気づきを得る機会にもなったと思う。そのあたりが結果として退学率減少につながっているのではないか。

<対応>

- ・昨年1年間は主にコミュニケーションの取り方を工夫してきた。オンライン授業はZoomを使用することがほとんどだが、ブレイクアウトルームを活用して個別面談の時間を用意するなど、学生と対話できる機会を意識的に増やしている。また、今年度からはスタログという学園独自のLMS (Learning Management System) を活用して授業を運用している。LMSを使うことで作品のフィードバックがやりやすく、チャットを併用することで学生との細かなやりとりが可能になった。オンラインだと周囲を気にせず授業に参加できるので、対面より集中しやすいという意見も多い。

(5) 学生支援

<報告>

- ・メンタル面での不調を訴える学生の増加。本校ではカウンセラー1名を採用。ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導。
- ・経済的事情により就学継続できない学生増は、奨学金利用のサポートの強化、独自の学費分割納入制度の導入・紹介もあり、改善している。
- ・保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。
- ・学生が主体的に取り組む学外での創作・演奏活動（作品販売、コンサート等）について、出展費用など支援している。が令和2年度はイベント等が開催されず実績はなかった。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

メンタル面での不調を訴えるものは、過去に人間関係や家庭内のトラブルを抱えているケースが多い。引き続きカウンセラー、保護者と連携、情報共有を行って対応していく。

(6) 教育環境

<報告>

- ・入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。
- ・令和2年度はコロナ禍の影響もあり、新入生へノート PC 送付を行い、5月よりオンライン授業での対応を行った。
- ・令和2年度は、7階教室の什器を追加。令和3年度に向けて2号館8階の教室整備を行った。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

令和3年度は、2号館8階教室、図書室、出力室などの整備、撮影スタジオの整備を予定。

(7) 学生募集

<報告>

- ・年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。令和3年度入学者は学科毎では増減あるが、全体では目標数を上回った。
- ・学生募集においても、オンライン説明会や、各分野のオンラインオープンキャンパスを行うなど、オンライン環境での募集活動も展開した。
- ・学校見学や説明会、体験入学等、入学を検討するイベントを数多く実施。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、オープンキャンパスメニューとして、体験入学、作品見学&学校説明会、進学資金説明会、特別講座のほか、分野別の説明会を実施予定。

(8) 社会貢献

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する小中高校生向けにキャリア教育プログラムに参画。主に夏休みを利用した講座で、毎回、多くの小中高校生が参加している。が令和2年度はコロナ禍の影響で中止となった。
- ・地域の様々な活動が推進されるなか、本校の体育館などの設備開放が求められてきており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にイラストコンテストを主催している。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

- ・令和3年度も引き続き、イラストコンテストを開催する予定。

(9) 財務

<報告>

- ・入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査は、監査人により実施しており、体制が確立されている。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、学校経営の安定化に努める。

(10) 法令等の遵守

<報告>

- ・設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年5月には県の現況調査を受けている。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、法令遵守していく。

以上